

CO-2-i-01	薬理学 I	第 2 学年	前期 必修	1.5 単位
担当者	葛巻 直子・芝崎 真裕			
一般目標 (GIO)	薬が生体に及ぼす作用ならびにメカニズムを理解する。薬理作用の発現に必須である標的分子 (作用点、作用部位) の分類ならびに特徴について習得する。また、自律神経系を中心とした、末梢神経に作用する薬の作用機序ならびに疾患への適用を理解することを目標とする。			
到達目標 (SBOs)	<p>【薬の作用】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬の用量と作用の関係を説明できる。 2. アゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) について説明できる。 3. 薬物が作用するしくみについて、標的タンパクである受容体、イオンチャネル、酵素およびトランスポーターを例に挙げて説明できる。 4. 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。 5. 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。 <p>【自律神経系に作用する薬】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 交感神経系あるいは副交感神経に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 2. 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 <p>【体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動神経系 (筋弛緩薬など) に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 2. 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barre (ギラン・バレー) 症候群、重症筋無力症 (重複) ならびに筋萎縮性側索硬化症について説明できる。 <p>【眼疾患の薬、病態、治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緑内障、白内障、加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 2. 結膜炎 (重複)、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症について説明できる。 <p>【耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. めまい (動揺病、Meniere (メニエール) 病等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 2. アレルギー性鼻炎 (重複)、花粉症 (重複)、副鼻腔炎、中耳炎 (重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎 (重複)、喉頭蓋炎について概説できる。 <p>【皮膚疾患の薬、病態、治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、褥瘡について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 2. 蕁麻疹 (重複)、薬疹 (重複)、水疱症 (重複)、乾癬 (重複)、接触性皮膚炎 (重複)、光線過敏症 (重複) について説明できる。 <p>【抗炎症薬】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 創傷治癒の過程について説明できる。 			
受講心得・準備学習等	薬物の作用機序/様式ならびに関連する病態をそれぞれ良く理解しておく必要がある。			
事後学習・復習等	教科書ならびに配布資料を中心として、事後学習・復習等をしっかり行うこと。			
オフィスアワー	原則、講義のある日の 14:00~18:00			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式		
回	項目	内容	担当者	SBOコード
1	薬の作用①	薬理作用の基本 アゴニストとアンタゴニストの概念	葛巻	e1(1)-①-1・2
2	薬の作用②	薬物標的（受容体、イオンチャネルなど）の分類 と細胞内情報伝達系の理解	葛巻	e1(1)-①-3～5
3	自律神経系に作用する薬①	自律神経の解剖と生理、自律神経の支配器官	葛巻	e2(1)-①-1～3
4	自律神経系に作用する薬②	自律神経を司る神経伝達物質の細胞内情報伝達機 構の理解	葛巻	e2(1)-①-1～3
5	自律神経系に作用する薬③	交感神経系優位な支配器官の各論	葛巻	e2(1)-①-1・3
6	自律神経系に作用する薬④	交感神経系の機能を修飾する代表的な薬物と薬理 作用	葛巻	e2(1)-①-1・3
7	自律神経系に作用する薬⑤	副交感神経系優位な支配器官の各論	葛巻	e2(1)-①-2・3
8	自律神経系に作用する薬⑥	副交感神経系の機能を修飾する代表的な薬物と薬 理作用	葛巻	e2(1)-①-2・3
9	体性神経系に作用する薬①	体性神経系の解剖と生理 運動神経の機能を修飾する代表的な薬物と薬理作 用	葛巻	e2(1)-②-2
10	体性神経系に作用する薬②	運動神経ならびに骨格筋の疾患と薬物治療	葛巻	e2(1)-②-2・4
11	眼疾患の薬	眼の機能の調節と眼疾患 眼疾患の病態ならびに薬物治療 眼疾患治療薬の化学構造と薬効	芝崎	e2(6)-①-1～4 e2(6)-④-1
12	耳鼻咽喉疾患の薬	耳鼻咽喉疾患の病態ならびに薬物治療 耳鼻咽喉疾患治療薬の化学構造と薬効	芝崎	e2(6)-②-1・2 e2(6)-④-1
13	皮膚疾患の薬	皮膚疾患の病態ならびに薬物治療 皮膚疾患治療薬の化学構造と薬効	芝崎	e2(6)-③-1～4 e2(6)-④-1
14	抗炎症薬	創傷治癒の過程	芝崎	e2(2)-①-3

成績評価 の方法	成績評価は本試験、追再試験によって行う。
成績評価 の基準	本試験の点数が60%以上を合格とする。 追再試験は筆記試験（口頭試問（レポート）を追加する場合もある）を行い、 総合点が60%以上を合格とする。
教科書	成田 年監修「疾患薬理学」（ネオメディカル） 葛巻直子著、成田 年監修「分子病態薬理学 ZERO」（京都廣川）
参考書など	